

## 指定討論 2

## 創価教育の実践的アプローチと実践記録運動

創価学会教育本部・人間教育研究会委員長・元実践記録中央事務局長

水 畑 利 章

## はじめに—創価教育と実践記録

戸田先生はこう言われていた「創価教育学は、牧口先生が現場で実践しては思索し、思索しては実践した、いわば、実践的知恵の生きた教育学である」。「牧口先生は、思いついたことを、紙に書き、実践しては紙に書き、熟考しては紙に書き、その草稿を行李に入れておき、溜まったものを整理し、こうしてつくったのが創価教育学である」等々と。

これは戦前からの会員で、後年、創価大学でも教鞭を執られた神尾武雄教授の述懐であるが、蓄積された草稿を整理・編集し、私財を投げ打って『創価教育学体系』の刊行を支えたのは、戸田先生であった。『創価教育学体系』は師弟の共同作業で世に出されたのである。

『創価教育学体系』第1巻で、牧口先生は、例えばこう述べられている。「然らば如何にして其の帰納的研究の順序を踏むか。先づ成功と失敗の事実を正確に認識し、その記録を作る事である。次に其の成功失敗の原因を考究し、検討し、更に同じ種類の種々なる事実を蒐集し、之が比較観察を行ひ、以て之等の成功又は失敗に現はれる関係を認識するのである」（『牧口常三郎全集』第6巻『創価教育学体系』（上）第1編「教育学組織論」第2章教育学の価値的考察 p.19）

記録を取り続けた初代会長の実践を踏まえて、1984年に池田会長が発表した「教育の目指すべき道—私の所感」の中で、教育事実を記録することの重要性が提案された。

「私が期待したいのは、具体的な教育実践のなかで、新たな青少年観、成長発達観を練り上げ、皆さまの手で今日の教育理論を構築していただきたい」「牧口初代会長は、誰にも劣らない情熱をもって、教育に携わると共に、厳しいまでに冷徹な科学的態度をもって教育事実を記録し、その蓄積を『人生地理学』をはじめとする教育理論にまとめあげ、ついには『創価教育学体系』へと構築していった」「今後も教育実践報告大会、研究発表大会を充実させ、さらに教育活動の基本である授業記録

の着実な蓄積を期待したい」と。

## I 6万事例の実践記録を累積

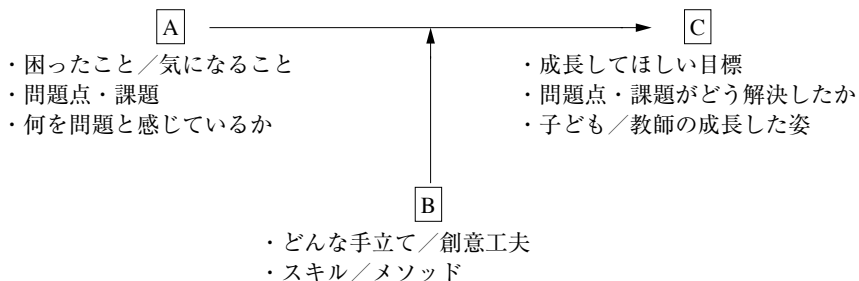
### 1 実践記録運動と実践記録 ABC

池田先生の教育実践記録を綴ることの提案を受け、教師自身の教育力の向上を促進し、子どもの可能性を開花するための取り組みとして、実践記録運動がスタートした。以来「教師が変われば子どもが変わる」をモットーに、教師自身の生命の輝きをもって、日々の教育現場で子どもとのかかわりをメモしながら、一年に一回それぞれの教育活動を綴る教育実践記録運動を展開してきた。保育園・幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、管理職、社会教育に携わる様々な立場から集められた実践記録は、現在6万事例を超えている。

私自身、教育所感が発表されてから取り続けた実践記録ノートは、現在101冊目となる。その「実践記録ノート」No. 1, 1ページ目は忘れ物の備忘録のメモであった。それから、反省の上に立って、長所や良さ、努力の様子などをメモするようになり、励ましの材料とした。

実践記録中央事務局では、1994年から全国の教育者が、誰でも取り組める実践記録のフォーマットとして「実践記録 ABC」モデルを提示した。以後、実践記録を書いたり、発表したりする際に「ABC」を基本としている。こうして、実践記録運動の基本ツールとして全国に波及していった。

#### 実践記録 ABC





心が熱く脈打っている。この心こそ教育の原点といえる。そして、その教育を実現していくには、教育法や教育学の改革はもとより、教育者自身の人間革命がなされなければならない。子供たちにとって、最大の教育環境は教師自身である。それゆえに、教師自身がたゆまず自己を教育していくことが不可欠となるからだ」（『新・人間革命』第7巻「文化の華」の章 p.15～16）

「子どもにとって、最大の教育環境は教師自身である」との指標を受け止め、それを教育本部では「教師環境論」として取組んできた。子どもの幸福をめざし、一人一人の「可能性」、桜梅桃李の才能・能力を開花するための創意工夫がねらいである。したがって、常に何をどうするか、どうしてあげることが目の前の子どもにとって、より価値的なのかかわりなのか、ということが問われる。その意味で「最大の教育環境」の「最大」とは、どこまでも子どもたち自身の生き生きとした学習活動や創造的な営みを通して、限りない子どもたちの可能性、才能・能力を触発し、開花するための最適な教師のかかわり方の状況づくり、といえる。教師自身の不断の生命革新、絶えざる挑戦を通して、子どもたちへの深い愛情や、豊かな知恵が限りなく溢れてくることが何よりも欠かせないのである。

### 3 創価教育の実践的アプローチによる6万事例

教育本部として推進している実践記録は、今年も11.18を記念して集められ、累計で6万事例を超えた。創価教育80周年の佳節の2010年には、5万事例の実践記録を達成した記念として、神奈川県教育部で「教育の明日を考える―創価教育と実践記録運動」をテーマにしたシンポジウムを開催した。県で集められた実践記録のなかから3,000事例を「実践記録ABC分析」として、基礎データを入力し、現状の問題や課題、創意工夫、成長した姿に分類し、分析をした。その結果、子どもたちへのかかわりの手立て・創意工夫としての「B」の分類・抽出からつぎの5つの要素が見えてきた。

①信じる／信じ抜く

②受け入れる／よさも悪さもありのまま自己表現として受け止める

③励ます／変容が出るまで励まし続ける

④支える／何を、どうしてあげればいいのか、どこまでも支える

⑤つながる／かかわり・絆・コミュニケーション・対話・交流・協同・連帯など

この他、実践記録に見られる“価値創造のメソッド”といえるものがある。それぞれの教育現場で、現実と理想のギャップをどう埋めるか、現実と目標設定の差をどう達成するかという視点から「マイナスの価値をプラスの価値にどう転換するか」「排から拝へ」といった教師自身の発想転換、かかわり方の転換が共通項として浮き彫りになった。

東京教育部の幼児教育者は、23区内の幼児教育者の教育実践500事例を分類・分析

した際、幼児教育の5つのかわり方を見出すことができた。①可能性を信じる ②愛する ③心を見つめる ④教師自身の心を見つめる ⑤子どもと共に成長する、などである。

また、ある中学校の教師は、多感な中学生と向き合い、在職中の最後は校長として学校と家庭と地域をつなぐ教育相談活動を地道に取り組んできた。その相談事例は600事例を超えている。そのなかで母親や子どもたちとのかわりで見出したメソッドとして、①笑顔でかわる ②話題を限定しない ③価値観なしに聞く ④ほめる、認める ⑤マイナス思考をプラス思考ととらえる ⑥共に一瞬の時をもつ ⑦待つ、急がさない、などが報告されている。

## Ⅱ 今後の課題と持続可能な実践記録運動

池田名誉会長は、第4回「わが教育者に贈る」〈下〉で、次のように紹介されている。

「世界を結ぶ『教育の光』が、いやまして重要な時代に入っています。昨年の年末には、わが教育本部の代表が『日中友好教育者交流団』として、中国の北京、天津を訪問し、熱烈な歓迎をいただきました。顧先生は、私が提案し、教育本部が進めている『教育実践記録運動』の活動にも、大きな期待と関心を寄せてくださっています。

『一人一人の事例から学び、そこから法則性を見つけ出していくことが大切です。皆さんの活動に、今後も心より期待しています』と、温かなお言葉を寄せていただきました。この連載でも、すでに紹介したように、実践記録については、アメリカのジョン・デューイ協会のヒックマン博士も、ガリソン博士も、最大に評価されております。世界が認める教育実践記録の運動です。教育本部の皆さんは、今後も自信をもって取り組み、教育技術の向上に努めていただきたいと願います」と。

教育実践記録運動に連動して、教育者が日頃の教育実践を紹介し、切磋琢磨を図り、人間教育のネットワークを広げる場として、「人間教育実践報告大会」を各地で開催してきた。「一人一人の子どもの幸福」をモットーに、不登校、いじめ、学級崩壊、非行問題などの教育的問題群に取り組む模様が報告された。どこまでも目の前の子どもの無限の可能性を信じ、体当たりでぶつかっていく教育現場での奮闘への共感の輪が広がっている。昨年、第34回目となる全国大会を10月30日、千葉県・船橋市で開催した。「教育のための社会へ、すべての子どもは輝く太陽—どこまでも信頼し、心からの励ましを—」をテーマに4題の実践事例が報告され、感動を呼んだ。

全国人間教育実践報告大会の来賓の挨拶として、中央教育審議会委員であった梶田 叡一学長や、横浜国立大学の平出彦仁名誉教授、ベスタロッcher研究者でもある武蔵大学の黒澤英典名誉教授などが講評され、創立80周年記念シンポジウムでは、宇都宮大学教育学部長の渡邊弘教授が基調講演をしている。

## 1 量から質を追求する教育方法・教育技術の科学的な研究

実践記録が2万事例を達成した前後で「読売教育賞」の受賞や「ほたるの星」の映画化など、対外的な実証が生まれてきた。今後、理論と実践の往還的アプローチを基調にし、質的研究（量的にはとらえられない人間の生のリアリティを研究する方法）、としての実践記録運動を展開していきたい。子どもたちの価値創造力を培っていく教育方法・教育技術研究を深める中心的な役割を担うものとして、以下の点を重視しつつ、教師の成長に資する活動を展開していきたい。

- ・教室からの教育改革をめざす
- ・教育現場での成功と失敗の記録を分析・省察（リフレクション）する
- ・子どもに学ぶ，子どもと学ぶ，子どもが学ぶ

## 2 世界に広がる実践記録と実践報告大会

今，SGIの各国で次々と教育部が誕生している。牧口先生から戸田先生，池田先生へと継承され，発展してきた創価教育の精神に学び，我が生命に刻んで，子どもの幸福のための創価教育に汗を流す教育者が輩出している。そうしたなかで，人間教育実践報告大会の開催を望む動きも生まれている。隣の韓国でも既に7回の人間教育実践報告大会が開催され，地球の反対側のブラジルでも行われた。このように，やがて世界中のSGI教育部が，実践報告大会が開催できることを期待している。それを支える実践記録への関心も事実強まっている。今後は，日本の教育本部としてSGI各国の教育部と連携を深め，創価教育の精神，生命尊厳，人間主義の教育思想を世界に広めながら，21世紀を「教育の世紀」としていけるよう，心を砕いていきたいと願っている。

## 参 考 文 献

1. 「教育の目指すべき道—私の所感」(聖教新聞紙上)
2. 「わが教育者に贈る」4回(聖教新聞紙上)
3. 『実践記録のすすめ』(教育本部作成小冊子)
4. 『牧口常三郎全集 第6巻』「創価教育学体系」
5. 『新・人間革命』第7巻「文化の華」の章(聖教新聞社)
6. 『人間教育への道—実践記録10,000事例』(鳳書院)
7. 『『平和の世紀へ』(鳳書院)